

歴史ある第三小学校

校長（第22代）

八木 慎一



本校は開校以来発展を続けて、令和5年度に150周年という大きな節目を迎えました。この栄えある150年の歴史と伝統の奥には、歴代の校長先生方をはじめとする本校教職員の方々の営々として続けてこられたご奮闘と、開校以来変わらぬご厚情とご支援を頂いている地域関係者の皆様や保護者・PTAの皆様のご協力と熱意があります。その150年という教育の足跡を辿れば、子供たちの夢が広がる学校を目指して、情熱を傾けて教育に打ち込まれてきた先達の素晴らしさと労苦を感じます。

本校は明治5年頃に新町の東禅寺に開設された「明倫学校」や、同じ時期に今井の真福寺に開設された「和睦学校」や、谷野の真浄寺に開設された「協和学校」、師岡の妙光院の「蒲廬学校」などをルーツにして誕生したようです。明治5年の学制の発布と合わせて、これら各地域に住む人々の、新しい教育を行おうという強い決意の表れと言えましょう。その後、幾度かの校名変更や統合を経て、明治36年に「霞高等小学校」となり報恩寺に仮校舎を構え、明治39年に現在の場所に校舎が完成しました。その後も「霞尋常高等小学校」、「霞国民学校」、「東京都青梅市立霞小学校」などの校名変更を経て、昭和28年に「青梅市立第3小学校」になりました。この150年の間に、11,574人もの卒業生が夢を抱いて巣立ち、現在も各界で活躍しておられます。

開校以来、未来を創る子供たちの育成はもちろん、地域と共に歩む学校として、伝統を積み重ねてきた第三小学校です。150周年という大きな節目に際し、10年後、25年後、そして50年後の200周年へ向けて、輝かしい伝統をさらに発展させていけるよう、教職員一丸となって全力を尽くしていきたいと、気を引き締めているところです。

開校150周年にあたる今年、3年前から続いている世界的な新型コロナウイルス感染症の流行に、やっと収束の兆しが見られるようになってきました。きっと数十年後にこの記念誌を読む返す頃には、今回の新型コロナの流行は、歴史年表の一項目に記載されていることでしょう。未だに学校では数年間続いた様々な制約の中での教育活動を、なかなか元に戻せていません。このような状況下ではありますが、保護者の皆様や地域の方々には、本校の教育活動に対して変わらぬご理解とご協力をいただき心から感謝しています。教職員一丸となって、学校生活や教育活動が充実したものになるよう創意工夫を重ねています。

青梅市教育委員会をはじめ、保護者、地域の皆様のご支援に感謝申し上げますとともに、第三小学校の歴史と伝統、そして諸先輩方の熱き思いをしっかりと受け継ぎながら、これからも、時代に求められる新しい教育に対する挑戦をさらに続けていきます。未来を生きる力を子供たちに育む学校の創造に向けて努力していくことをお誓い申し上げて、ご挨拶といたします。